

水都大阪ビジョン2030 【アクションプラン】

(案)

2026年2月
水都大阪コンソーシアム



1. アクションプランの考え方

2. アクション

(1) 水都大阪ならではのブランディング・魅力発信

(2) 舟運の活性化と水辺エリアの魅力向上

(3) 水辺の安全と環境を守る取組みの推進

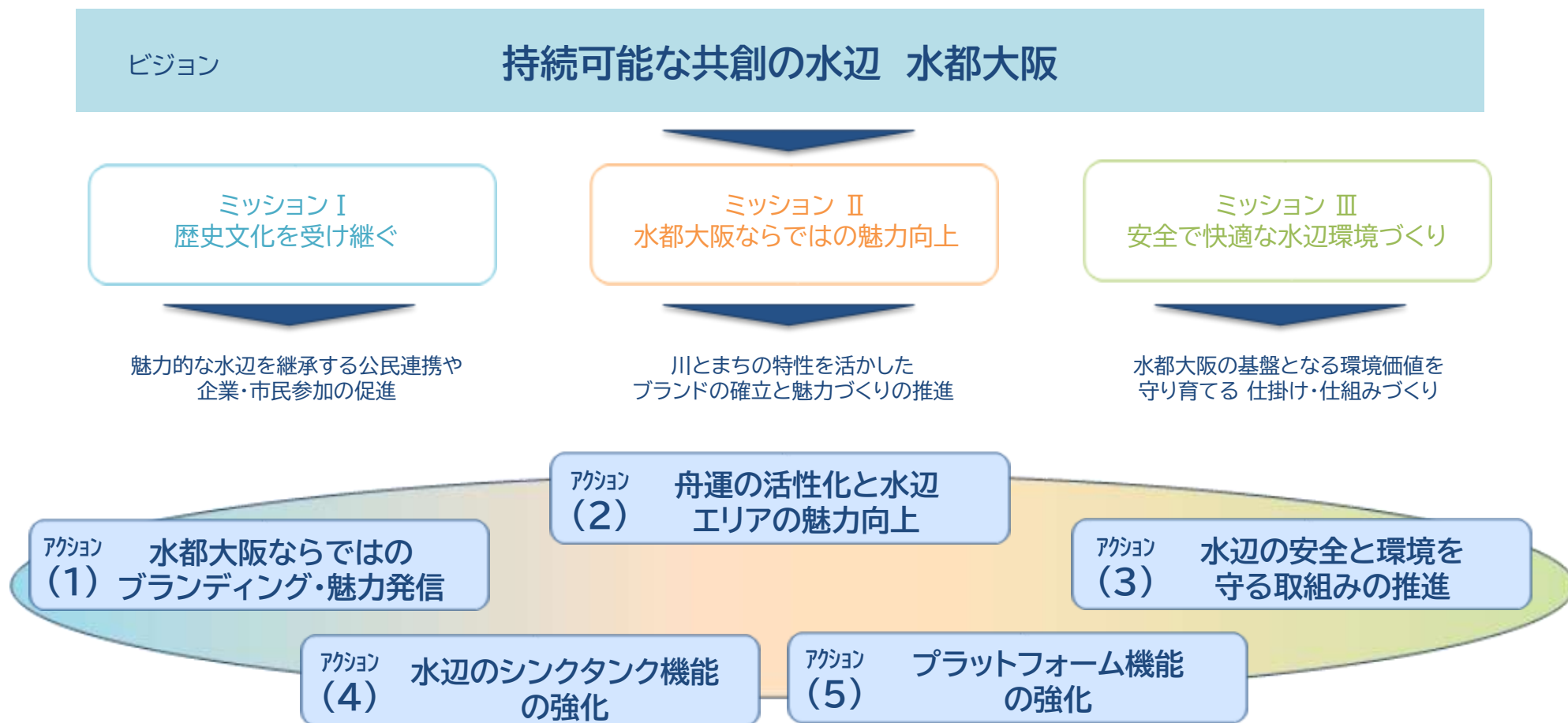
(4) 水辺のシンクタンク機能の強化

(5) プラットフォーム機能の強化

3. アクション一覧

1. アクションプランの考え方

- 本アクションプランは、2026年度から2030年度までの5年間について、水都大阪コンソーシアム(以下SOC)の事業を中心とした取組みの方針を示すものである。
- ミッションⅠ～Ⅲの方向性を受けて構成する(1)～(5)のアクションを実施することで、ビジョンの実現を目指す。アクション(1)～(3)はSOCが他の主体と連携しながら実施。アクション(4)(5)はSOC自体の機能強化の取組みである。



2. アクション(1) 水都大阪ならではのブランディング・魅力発信



~2025
成果と課題

2026~2030
取組方針

目指す状態

■成果

- 多様なメディアを活用した主体的な情報発信 (SNS,HP運営)
- 外部メディアへのアプローチによる情報発信連携



多言語対応したクルーズマップや船着場案内幕

- 訪日・在日外国人向けメディアの活用



海外メディア向けナイトクルーズ

■課題

- 水都大阪の一体的な情報発信や統一感
- 「水都大阪」としてのブランド強化、国内外での認知度向上

●:継続 ○:拡充 ◎:新規

①水都大阪ならではのブランディング

水の回廊と重点エリアを中心に、「水都といえば大阪」を想起させる水辺のブランディングを行う。

- ◎水都大阪全体の世界におけるポジショニングやエリア特性の把握
- ◎水都大阪全体のブランド戦略検討と定期的なブランド力調査の実施
- 重点エリアを中心に関係主体と連携してエリアごとのイメージを検討

②世界における水都大阪の認知度向上

大阪の個性として水都を打ち出し、国内外の水都との連携を広げる。

- ・海外に向けた情報の編集・発信
- ・国内外の視察対応
- ◎水都国際会議(仮称)等の実施・参画
- ◎水都関連のMICEの誘致



国際会議への参加 (ウォーターソウル2021)

③多様な魅力の再編集と発信

国内外へ向けた情報発信を継続するとともに、市民にとっても訪れる人にとっても分かりやすい水都大阪を目指す。

- ・水都大阪の魅力を再編集・発信(歴史文化・環境など)
- ◎船着場・水辺への誘導強化(船着場案内幕の更新、鉄道等との連携、ライトアップ等)



【参考】Fieldwork Facility (ロンドン・デザイン会社) 結束バンドのようなもので固定された、駅から新開発エリアまでの案内表示

「水都」といえば大阪が想起されることが国内外に浸透している

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- ・大阪が水都だと思える市民・国内外の旅行者の割合
- ・水辺で過ごす人の数(昼・夜)
- ・ブランド力調査における目標数値のクリアなど

2. アクション(2) 舟運の活性化と水辺エリアの魅力向上



■成果

- 民間による水辺拠点増加 (2021年以降4か所)



β本町橋

- 水上花火クルーズなど新たな旅行商品を造成
- 冬の閑散期に水辺のライトアップを実施 (大阪・光の饗宴と連携)



中之島・土佐堀川沿いライトアップ

■課題

- 水都大阪全体の回遊性向上(船・歩ける水辺)
- 乗船チケット購入などのデジタル化

⋯:継続 ○:拡充 ◎:新規

①水都大阪ならではの舟運の取組み

水と光のシンボルである中之島・水の回廊で、新たなナイトクルーズの創出など舟運のさらなる活性化に向けた取組みを行う。

- ナイトクルーズなど舟運の活性化に向けた取組み
- 新たな観光商品造成の促進

②舟運や水辺を活用した回遊性の向上<連携事業>

重点エリアを中心に、多様な主体の取組みと連動を図る。

- ・淀川・バイエリアとの連携
- ・水辺の遊歩道整備等の事業との連携
- ・乗船チケット購入などのデジタル化に向けた継続的な検討

③ブランド強化に向けたエリアのにぎわいづくり

重点エリアを中心とした水の回廊において、水都大阪のブランド強化を目指し、段階的ににぎわいづくりを展開する。

- 川・エリアごとの特性を活かした連携によるにぎわいづくり
- ◎ブランド戦略と連携した取組みの実施
- ◎水の回廊における回遊型のにぎわいづくり (例:船着場を中心とした水都大阪フィールドミュージアム)



八軒家浜会場と中之島会場を結ぶ拠点間クルーズ (2024年)



【参考】丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムエリア全体を博物館と捉え、モデルコースも設定。(出典:丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会)

水辺の拠点とその周辺エリア、水辺の拠点同士の間が強化され、水都大阪の魅力を巡る回遊性が向上している

■アウトカム指標(イメージ)

※2026年度に検討・設定

- ・水辺の拠点間をつなぐ舟運の航路数
- ・エリアにおけるイベントの数と参加人数
- ・回遊型イベントへの参加人数と満足度

など

2. アクション(2) (参考)重点エリアの現状と進行中の開発

【西の結節点】

水都大阪の海への玄関口として
歴史的な価値が集積するエリア
(中之島西部・中之島GATE・川口・江之子島)



【東の結節点】

緑豊かな水辺が歴史文化と
イノベーションをつなぐエリア
(中之島東部・天満橋・東横堀川北部・大阪城東部)



【現状と進行中の開発】

- 大阪港発祥の地や川口居留地など、かつて水都大阪の玄関口として栄えた歴史的なエリア
- なにわ筋線の開設や夢洲への航路開拓など広域のアクセス向上のポテンシャルが高い
- リーガロイヤルホテルや大阪国際会議場などグローバルコミュニケーションゾーンをコンセプトに中之島五丁目地区の再開発が進行中
- 水辺のライトアップや歩行者空間の整備が進んでいるものの連続性に課題

※水と光のまちづくり構想整備マップ（2011年8月発行）をベースに作成
※開発計画エリアについては2025年8月時点の情報のもと作成

【現状と進行中の開発】

- 八軒家浜船着場、大阪城港、本町橋船着場など船着場が多数あり、舟運活用のポテンシャルが高い
- 大阪城公園をはじめとした緑と、中央公会堂・造幣博物館等近代建築を活用した文化施設が水辺に多数存在している
- 森之宮や京橋などイノベーション拠点を含むエリア開発が進行中
- 天満橋周辺でホテルやタワーマンションの建設が進行中
- 水辺のライトアップの更新が予定されている
- 東横堀川では公民連携組織の設立や未来ビジョン策定に向けた取り組みが進行中

2. アクション(3) 水辺の安全と環境を守る取組みの推進



～2025
成果と課題

2026～2030
取組方針

目指す状態

■成果

- OSAKAごみゼロプロジェクトや水上の清掃ツアーなど、水辺の環境美化活動の実施
- 全国初の自主的な船の航行ルールの策定・更新
- 舟運事業者への安全と賑わいの両立に向けた啓発



水上航行ルールリーフレット(R7)

水素燃料電池船
まほろば
(出典：2025年日本国際博覧会協会HP)



■課題

- 人気が集まるエリア・シーズンへのレスポンスブルーツーリズム視点からの検討
- 舟運の安全強化
- 電気船、ゼロエミッション船への移行・環境整備

⋯:継続 ○:拡充 ◎:新規

①水辺環境活動への企業・市民の参加促進<連携事業>

水都大阪の環境についての知識を広げ、持続可能な水環境を実現するための取組みへの市民や企業の積極的な参加を目指す。

- 水辺の環境活動への企業・市民参加の促進
(ごみ削減に向けた取組み、船舶のゼロエミッション化、市民参加環境プログラム実施 等)
- 学校連携による環境学習の実施
- ・大阪ブルー・オーシャン・ビジョンとの連携



大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画
(出典：R3年 大阪府・大阪市)



水上のごみを拾うプログラム
(出典：日本シティサップ協会)

水辺の環境や船の安全への意識が高まり、水辺の快適性が向上している

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- 水辺の環境活動に参加する市民・企業の数
- 夜でも安心して水辺で過ごせると感じる市民の数
- 大阪ブルー・オーシャン・ビジョンにかかる調査における市民満足度
- 水安協における舟運インシデント件数など

②船・水辺の安全・安心の普及振興<連携事業>

船が安全に航行し、安心して歩ける水辺を目指す。

- ・河川の安全と振興の協議会での情報共有
- ・安全な舟運を維持するための活動
- 関係機関と連携した、水辺の見守りを強化する取組み

2. アクション(4) 水辺のシンクタンク機能の強化



～2025
成果と課題

2026～2030
取組方針

目指す状態

■成果

- 舟運利用者数や船舶数、情報など水辺にまつわるデータの蓄積



水都大阪の船が一覧できる船のカタログ

■課題

- 水都大阪の基礎となる様々な情報や既存データの体系的な整理と発信不足
- 取組みの成果を評価する指標がない

⋯:継続 ○:拡充 ◎:新規

① 公民連携ならではの調査・研究・アーカイブ

データを活用した新規事業や新しい取組みの創出、ファンづくりや提言にもつなげることを目指す。

- 水都大阪にまつわるデータを整理し、わかりやすく一般に公開
- ◎大阪府・市・経済産業省等の統計データなど関連データの収集・分析



Strolyによる水都大阪まちあるきマップ



水都大阪説明用パネル

水都大阪に関わる情報が整備されることで、水都大阪の状況が広く共有され、関係者の理解が深まっている

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- アーカイブデータの引用件数 など

② 評価軸の設定

公民連携で水都大阪の現状を把握しながら、将来における水都大阪のあるべき姿を検討し、進むべき方向性やアウトカム指標を明らかにする。

- 水都大阪の取組みの方向性を定め、進捗を測るための評価軸の検討
- 評価軸づくり・年度ごとの事業レビューにおける専門家との連携

2. アクション(5) プラットフォーム機能の強化

～2025
成果と課題

2026～2030
取組方針

目指す状態

■成果

- 新しい交流の場や参加のきっかけづくり(水辺を語る会、水都大阪の教科書お披露目会、水都大阪かるた大会の実施)
- 月2回メルマガを配信(約800名(2025年11月末))
- 水都大阪の魅力を次世代へ発信・啓発(水都大阪アカデミア:参画大学ゼミ数12(2025年11月末) / さくらクルーズ無料招待小学生:3,101人(2024年度総数))

■課題

- これまでの公民連携の取組みや活動に関わるノウハウの継承
- 水都大阪での活動や事業に関する相談窓口の拡充

①水辺の事業・活動の共創

舟運事業者、水辺拠点事業者、新しいエリア主体、行政等が情報を共有し、水辺の活動促進を目指す。

- 関係者との連携による情報プラットフォームの構築
- ◎効果的な共創の場づくりの検討
- ◎エリアが主体となった水辺の活動の支援

●:継続 ○:拡充 ◎:新規



舟運や水辺関係者の意見交換会(水辺を語る会)



市民が参加する橋洗い

②水都大阪のファンづくり

子どもや学生、働く人などを対象に、水都大阪の成り立ちや水辺の楽しみ方を伝えることでファンを増やし、水辺に携わる人の裾野を広げる。

- 多様な対象に向けた水都大阪の魅力発信(大川さくらクルーズ、水都大阪かるた大会、水都大阪の教科書 等)
- 学校や他地域との連携(水都大阪アカデミア)



水都大阪かるた / 大川さくらクルーズ

③水都大阪にまつわる相談窓口機能の拡充

相談窓口を通して新しい水辺の活用を促進するため、関係先・担当者へスムーズにつなげ、民間活動を促進する。

- 水都大阪での活動や事業に関する水辺の利活用の相談対応
- 適切な事業者・行政・仕組みへの横つなぎ

水都大阪に関わる活動が多様化し、次世代のプレイヤーが活躍している

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- 水辺での活動団体・プレイヤーの数
- 複数分野の連携によって生まれたプログラム数
- 国内外の会議や視察対応の満足度 など

3. アクション一覧

アクション	事業項目	主な役割分担	
		SOC	関連組織
(1) 水都大阪ならではのブランディング・魅力発信	① 水都大阪ならではのブランディング	○	
	② 世界における水都大阪の認知度向上	○	
	③ 多様な魅力の再編集と発信	○	
(2) 舟運の活性化と水辺エリアの魅力向上	① 水都大阪ならではの舟運の取組み	○	
	② 舟運や水辺を活用した回遊性の向上	○	↔ 連携
	③ ブランド強化に向けたエリアのにぎわいづくり	○	
(3) 水辺の安全と環境を守る取組みの推進	① 水辺環境活動への企業・市民の参加促進	○	↔ 連携
	② 船・水辺の安全・安心の普及振興	○	↔ 連携
(4) 水辺のシンクタンク機能の強化	① 公民連携ならではの調査・研究・アーカイブ	○	
	② 評価軸の設定	○	
(5) プラットフォーム機能の強化	① 水辺の事業・活動の共創	○	
	② 水都大阪のファンづくり	○	
	③ 水都大阪にまつわる相談窓口機能の拡充	○	